

令和6年度シラバス（歴史総合）

学番21 県立阿賀黎明高等学校

教科（科目）	地理歴史（歴史総合）	単位数	2単位	学年（学類）	2学年（教養）
使用教科書	新選 歴史総合 東京書籍				
副教材等	新選 歴史総合 ワークノート（東京書籍） / ダイアログ歴史総合（第一学習社）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①自分と社会の関係性を見つめ、他と協働しながら取り組む力を育成します。 ②複雑化する社会や地域に関心を持ち、様々な考えを受け入れる力を育成します。 ③好奇心をもって自ら学び続け本質を見極めようとする姿勢と力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①あらゆる進路に対応できるよう3つのカリキュラムを設定します。 ②少人数制により個々にあったきめ細かな指導を行います。 ③地域と連携し、地域資源を活用した教育活動を行います。 ④生徒が興味をもった題材を地域の大人が伴走しながら探究するプロジェクト学習に取り組みます。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
(1)	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の基本を理解するとともに、諸資料から歴史に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
(2)	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、基本的な概念などを活用して考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決方法を構想したりする力や、考察、構想したことを具体的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
(3)	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、基本的な考察や理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導計画

月	単元	教材又は項目	学習活動（指導内容）	評価方法	時間
4	第1章 歴史の扉	オリエンテーション	・歴史総合の学習の意義や内容、学習の評価方法を理解する。 ・歴史を学ぶ上で必要な時間軸・空間軸について考察する。	ワークシートの確認	1
		1節 歴史と私たち	・諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	定期考査 学習ノートの確認 確認プリントの評価 授業中の発言、発表 授業への参加、取組	1
		2節 歴史の特質と資料	・日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、画像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 ・前近代の歴史について、中学校での学習内容を振り返り、次の学習につなげる。		2
5	第2章 近代化と私たち	1節 近代化への問い	・交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料を活用し、近代化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。	定期考査 学習ノートの確認 確認プリントの評価 授業中の発言、発表 授業への参加、取組 ワークシート、レポート	2
		2節 結び付く世界と日本の開国	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・産業革命の影響、中国の開港と日本の開国の背景とその影響などに着目して、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを考察し、工業化と世界市場の形成を理解する。		8
6	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	3節 国民国家と明治維新	・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察し、立憲制と国民国家の形成を理解する。 ・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。 ・市民革命はどのような社会の仕組みを生み出したのかについて理解する。 ・19世紀の欧米諸国では、どのような国家形態が模索されたのかを理解する。 ・19世紀のアジア諸地域では、どのような背景のもとにどのような政治的変化が生じたか理解する。 ・明治維新は、どのような国際環境の中で起き、日本社会をどのように変えたか理解する。		10
7		4節 近代化と現代的な諸課題	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近代化の歴史を理解する。		3
8・9		1節 国際秩序の変化や大衆化への問い	・国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソビエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について協働して考察し、問いを表現する。	定期考査 学習ノートの確認 確認プリントの評価 授業中の発言、発表 授業への参加、取組 ワークシート、レポート グループワーク	3
10	第4章 グローバル化	2節 第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを考察し、総力戦と大戦後の国際協調体制を理解する。 ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを考察し、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。		8
11		3節 経済危機と第二次世界大戦	・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを考察し、国際協調体制の動揺を理解する。 ・第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察し、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。		8
12	第4章 グローバル化	4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	・自由・制限、平等・格差、開発・保全、統合・分化、対立・協調などの観点を基に主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して考察し、表現することを通して、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解する。		8
1		1節 グローバル化への問い	・冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察する。	定期考査 学習ノートの確認 確認プリントの評価 授業中の発言、発表 授業への参加、取組 ワークシート、レポート グループワーク	4
	2節 冷戦と世界経済	・地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソビエト連邦の政策転換などを考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。 ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを考察し、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。		5	

2	ル化と私 たち	3節 世界秩序の変容と日本	・アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを考察し、市場経済の変容と課題を理解する。 ・冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを考察し、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	5
3		4節 現代的な諸課題の形成と展望	・科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。	2

「1単位時間は50分」

70

#### 4 評価の観点の趣旨

観点	(1) 知識・技能	(2) 思考・判断・表現	(3) 主体的に学習に取り組む態度
趣旨	世界と其中的の日本を広く相互的な視野で捉えている。現代の諸課題形成に関わる近現代史を理解している。諸資料から歴史情報を調べまとめる技能がある。	近現代史の変化を多面的・多角的に考察できる。歴史課題を把握し解決に向けて構想できる。	近現代の歴史を見通しを持って学ぼうとしている。学習を振り返り次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

#### 5 評価方法

観点	(1) 知識・技能 (40%)	(2) 思考・判断・表現 (30%)	(3) 主体的に学習に取り組む態度 (30%)
評価方法	・定期考査の評価 ・確認プリントの評価 ・ワークシート、レポートの評価	・定期考査の評価 ・確認プリントの評価 ・ワークシート、レポートの評価 ・授業の発言、発表状況 ・グループワークの参加状況	・学習ノートの達成度 ・授業への参加、授業への取組 ・授業中の発言、発表状況 ・ワークシート、レポートの取組状況 ・グループワークへの参加状況

#### 6 担当者からの一言

近現代の世界と日本の歴史を様々な視点から考察し、国際社会への理解を深めていきます。定期考査だけでなく、課題の提出状況や授業への参加態度、積極性も評価します。